

平成27年度(第69回)

芭蕉祭



一般の部 特選

俳聖松尾芭蕉の業績を称え遺徳を偲ぶ「平成27年度(第69回)芭蕉祭」が、10月12日(月)迄、上野公園を中心に行われました。

芭蕉翁銅像、文学碑への献花、献菓のあと、上野公園内の俳聖殿前で厳かに式典が行われました。式典は、「芭蕉祭子ども合唱団」による「芭蕉さん」の斉唱で始まり、献俳句特選句の披講、懸額除幕、各受賞者への表彰などが行われました。

今年の献俳句は、全国各地・世界各国から、一般の部に8,036句、テーマの部に1,596句、児童・生徒の部に27,531句、英語俳句の部に33カ国から860句、連句の部に118巻、絵手紙の部に702枚、ポスター原画の部には448枚の応募がありました。各部門の特選句と、一般の部で入選した市内の皆さんの句を紹介します。

【問い合わせ】
文化交流課 ☎22・9621 FAX 22・9694

▼有馬朗人 選

加賀の国影笛を聞く雪時雨
虫送る休耕田も隠し田も
秩父市 須田真弓
大垣市 山下美夜子

▼稲畑汀子 選

峰に入る熊野古道は木の芽どき
踊り好き秘めにし人の旅仕度
尾鷲市 岡村紀洋
大分市 高柳和弘

▼茨木和生 選

城下より仰ぐ城山山桜
こんなにも山桜竹伐りたれば
枚方市 さとうひろこ
多摩市 田中久幸

▼宇多喜代子 選

高波の打ち合ふ礁北齋忌
物の影なべて大きく秋彼岸
名古屋市 市之瀬肇
津市 奥山功

▼岡崎光魚 選

そぞろ寒刺繍のほつるる太刀袋
キャベツ剥く芯のあたりに父母のこゑ
伊賀市 松本ちい
札幌市 佐藤多美子

▼小澤實 選

焼諸の皮きらきらと落ちにけり
夜涼みやスナック菓子を順送り
高松市 涼野海音
東京都港区 長谷川照子

▼鍵和田柚子 選

爛熟の世や錆色の薔薇咲かせ
蒼天に連峰据ゑて翁の忌
新宿区 森尻禮子
岡崎市 小川八重子

▼金子兜太 選

今も夏はるかも夏や少年兵
父水漬くルソンの海の満月に
名古屋市 早坂貞三
天理市 能登つくも

▼黒田杏子 選

平和とは戦わぬこと蝉鳴きぬ
戦無き七〇年に注連飾る
草津市 山根悠翁
福岡県 濱田イサオ

▼塩田数柑子 選

梅雨深し空き家問題抄らず
山鉾を守る町衆の心意気
伊賀市 浅野睦月
京都市 花野里美

▼棚山波朗 選

雨あとの山襲けぶる翁の忌
鯨挿しに波尖りくる湖北かな
伊賀市 中森三津子
伊賀市 浜地和恵

▼西村和子 選

かんばせを寄せ芍薬を曇らする
夕立の山河渡りて来し句ひ
岸和田市 西浦昭美
伊賀市 久保善信

▼長谷川權 選

秋声はこの一天の何処より
藁馬の耳は枇杷の葉虫送り
津市 大川きよ女
名古屋市 黒野涼子

▼星野椿 選

梅雨明の宙にゴンドラすれ違ふ
雪吊の縄千本を解放す
岡崎市 山口節子
北広島市 水口茂

▼正木ゆう子 選

海賊のラム酒も風邪に敵はざる
榎芽吹く去年の熊棚そのままに
神戸市 松下弘美
福島県 黒澤正行

▼三村純也 選

読初の谷崎源氏須磨の巻
草笛の風にのりゆく高音かな
長岡京市 藤堂くにを
堺市 伊藤とし子

▼宮田正和 選

子の描く魚の空翔く夏休
胸擦つて水かがやかす夏つばめ
尾鷲市 中森泰次
伊賀市 米野てるみ



英語俳句の部 特選

▶加藤耕子 選(訳)

drop by drop the icicle loses its life glittering in sun
(日に光りつららのしづく生命失す)
Joachim Thiede (ヨアヒム・ティエーデ) /ドイツ

A bright hue through the green wave rhyming with spring
(さみどりのひかりのしらべ春の詩)
Ram Krishna Singh (ラム・クリシュナ・シン) /インド

連句 特選

▼今村苗 東條士郎 西田青沙 和田忠勝 共選(五十音順)

※半歌仙『灌佛の』の巻 富山県 瀧澤尚子 捌

灌佛の日に生れ逢ふ鹿の子哉 芭蕉翁

天天下なべてうららか 瀧澤尚子

誰一人気付くことなき童にて 三輪和

走り根多き杣たちの径 尚子

祝歌の聲は野太し月の宴 和

名物なれば推しは麦とろ 尚子

ファッションのイタリア仕込み爽やかに 和

君へ君へと利かぬブレーキ 尚子

優しさをてつきり愛と勘違ひ 尚子

水雨もよけれもの想ふとき 尚子

煎茶などワイングラスで汲む時代 尚子

伸縮自在法の解釈 和

月影に怪しきけはひ肝試し 尚子

蝉の蛻のしがみつく枝 和

肩書を外せば軽くなるものを 尚子

秘湯巡りでツアー激安 和

ホールインワンの奇跡よ花に美酒 尚子

夢の続きを語れ佐保姫 和

平成二十七年七月十九日 満尾文音

テーマの部 特選

▼片山由美子 選

夏木立自転車で来る北大生 伊賀市 森中幸枝

裸木となるにためらひなかりけり 高山市 小林昌子

絵手紙 特選

阿山小学校六年 福島実咲



ポスター原画 特選

新居小学校四年 山口裕真

児童・生徒の部 特選

〔保育園(所)・幼稚園・小学校一〜三年〕

▼喜多富美・永井みよ・東権東子・福山良子・横田線一 共選(五十音順)

すいぞくかんだつまきみたいなあじのむれ
 うみにいくかかとであるくあついな
 えいみたよゴウグルつけてうみのなか
 にわのはなえらんでまいるぼんのはか
 あまやどりあずまやでできくせみのこえ
 うぐいすがおにぎりたべるぼくのそば
 とけいそうおしべとめしべ花の中
 つゆぐもり雨ふりそうな二時間目
 くらやみにかじかがえるのこえひびく
 入学しき大かんばんのよこにたつ 高岡市立東五位小学校三年 竹下佑人
 のぞきこむザリガニさがしチャイムなる 高岡市立伏木小学校三年 川原昇悟
 カヤックでどうくつくぐる夏の海 阿山小学校三年 その川え真

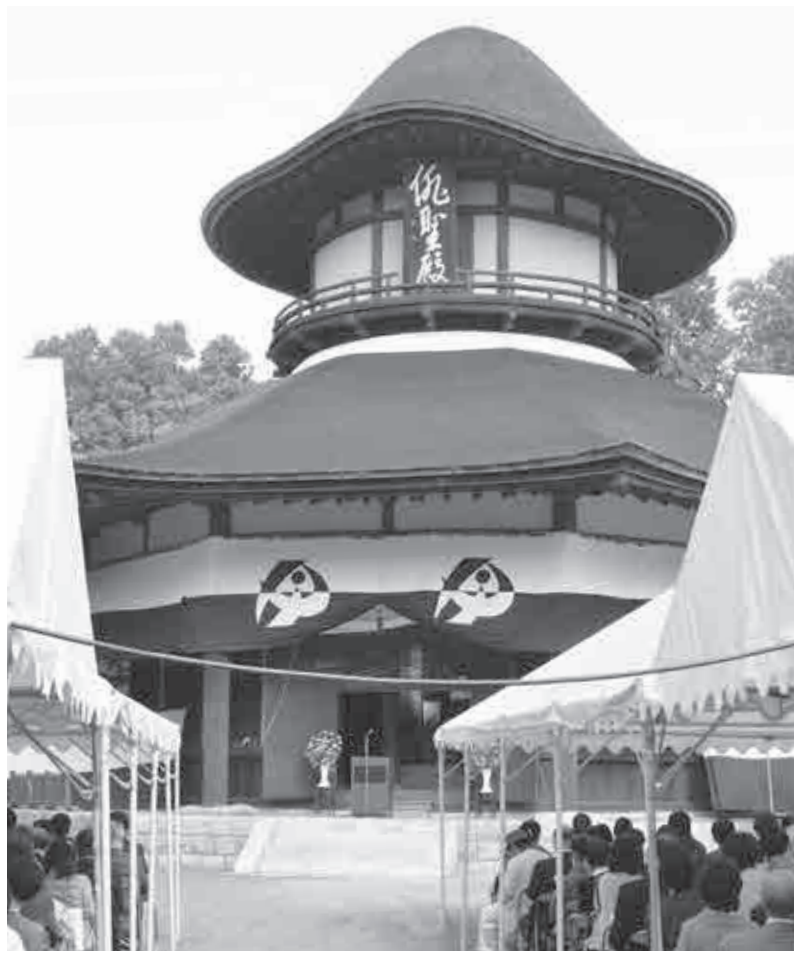
〔小学校四〜六年〕

▼北村保・北村みち・佐々木経子・西村八洲子・松本ちい 共選(五十音順)

あずまやに追いかけてくるキリギリス
 がんばって思わず応援せみの羽化
 はか石にたましいねむるつゆ晴れま
 白い球一直線に夏空へ
 そ父みまう病院坂にせみしぐれ
 能登の夜キリコ祭りの火がともり
 五稜郭きれいに落ちた流れ星
 見わたせば夏風かおる千枚田
 夏富士の裾野をめぐる母子旅

ひかり保育園 藤岡優生
 古山保育園 ありとしりんず
 府中保育園 みやもとなる
 友生小学校一年 ふくだかほ
 島ヶ原小学校一年 やまもとあやか
 八峰町立堀川小学校一年 畠山桐依
 上野西小学校二年 まつ田はるか
 高岡市立伏木小学校二年 岡田玲那
 青山小学校二年 上田周
 高岡市立東五位小学校三年 竹下佑人
 高岡市立伏木小学校三年 川原昇悟
 阿山小学校三年 その川え真

三訪小学校四年 谷口朱音
 鞆田小学校四年 竹内幸成
 柘植小学校四年 平井幸祈
 友生小学校五年 宮田莞爾
 成和東小学校五年 兼清紗矢
 新居小学校五年 徳井快香
 八峰町立堀川小学校六年 武田天智
 友生小学校六年 山中美弥
 上野西小学校六年 磯尾久夏



〔中学校・高等学校〕

▼下村哲朗・土井陽代・濱地和恵・藤井充子・山村勝子 共選(五十音順)

太陽光パネルの上をつばめ舞う
 あさはやくマラソンに出てきりの中
 走るたび体操服が汗模様
 日焼けした足に白波引き返す
 里帰り祖母に合わせて青田道
 雲眺めかすかに見える蜘蛛の糸
 校舎からプール開始の合図きく
 心地良い部活帰りの蝉の声
 イヤホンを外せばそこに蝉の声
 星月夜部活帰りの無人駅
 もういいかい声のする方にも若葉
 五月雨を断ち切るやうに弓放つ

城東中学校一年 永井光
 崇広中学校一年 西岡大世
 緑ヶ丘中学校一年 市悠翔
 城東中学校二年 森島眞香
 崇広中学校二年 藤島眞香
 松阪市立鎌田中学校三年 川村綾音
 緑ヶ丘中学校三年 西岡征輝
 崇広中学校三年 宮本佑樹
 三重県立名張桔梗丘高等学校一年 中西彩花
 茨城県立下妻第一高等学校三年 勝田華菜子
 愛知県立安城高等学校一年 鶴田覚士

一般の部 入選

※伊賀市在住の人のみ掲載しています。

▼有馬朗人 選

もぢずりや石ひとつ置く遺髪塚

和田芙美

▼稲畑汀子 選

校舎より抜きん出てをり大夏木
牡丹寺ぼうたんに酔ひ人に酔ひ
露涼し日の差すまでの畑仕事
鮎川の瀬音親しみたもとほる

永井二紗子

松井和子

北村みち

藤井充子

西田扇女

子日康子

▼茨木和生 選

鮑海女龍宮さんと海讀ふ

福山良子

▼宇多喜代子 選

梅雨深し正座して見る地獄絵図
恙なき余生の一日田草とる
我が影に躓く一步炎天下
夏椿しづかに落つる胸の中

澤井とき子

和田好子

神尾早智子

石原京子

▼岡崎光魚 選

仔牛着く早苗饗の日の厩
焙炉師の抽出し多き戸棚かな
蟻と蟻行き違ふ頭をぶつけあひ
雪墜ちて設へし畏潰れけり

橋本良

谷本まさ子

永井みよ

島井節

▼小澤實 選

人参の皿並びたる神馬前

西川宏子

▼鍵和田柚子 選

父の汗背の子の汗と混りあふ
柚子の花柚子と言う名の子に匂ふ

堀内智恵子

喜多柚子

▼金子兜太 選

向日葵や小鳥の出逢ふ喫茶店

保田ひろ子

▼黒田杏子 選

紅花の適へる古伊賀破袋

福山良子

▼塩田数柑子 選

長く病み苛立つ日日の蟬時雨
デジタル化進む医療に松落ち葉
底知れぬ噴火に脅え梅雨に泣く
セールの電話疎まし昼暑く

西出喜子

和田嘉也

森本禾穂

安本毬花

安井厚子

山下多恵子

葛原恵子

小倉葉子

山下久美

西野登志子

米野てるみ

▼西村和子 選

地に触れむばかりに纏れ鳥の恋
帰省して船の汽笛に見覚めけり
睡蓮の白を冥めて日照雨過ぐ
水打てり路地の奥なる悉皆屋

服部登紀子

石原京子

土井陽代

澤井とき子

▼長谷川權 選

浜に干す目刺にまたも鳶の影
初夏の露よばれて嬉し酒の友
夏山を映す大池水豊か
どこからも見ゆる大山夏だより

宮谷ふさ子

山よしゑ

松尾尚泰

山島勝年

▼星野椿 選

誰も挽がぬ釣月軒の枇杷たわわ
忍者町夕立雲の忍ちに
健康の証の汗と尊びぬ
夏の空北斗七星手が届く

森中幸枝

富田悦子

藤井充子

久保敏久

井上英子

松井和子

羽根千恵

▼正木ゆう子 選

鱒を干す丸太は海へ突き出せり
全身を震はせ揚羽蜜に酔ふ

箱林一正

中嶋國博

▼三村純也 選

呼び起こす大地のチカラ畔を焼く
草笛のやうやく吹けし笑顔かな
待つ子には仲々暮れぬ蛍の夜
ひたすらに眠れば癒ゆる春の風邪
遠雷や天安門の赤き壁

北村みち

森中幸枝

西田扇女

岡田節

堀内智恵子

▼宮田正和 選

築番の夜明けの仮眠ほととぎす
けふ殊に雲真白なり梅雨の明
海光の鋼照り合ふ雲の峰
せせらぎの音聞き分けて朝涼し
つづれさせ納屋に積まれし荒筵
朝風のけふよくそよぐ山法師
芭蕉忌へ今年最後と献詠す
大琵琶の銀の細波今朝の秋
夕蟬のしみ入る野猿供養塔
風青し柳若葉の大揺れに
ペランダのトマト熟れしと子の便り

浜地和恵

服部登紀子

福井伶子

白井弘美

谷口千代

山寄せつ

喜多柚子

澤井とき子

宮谷ふさ子

古川幸子

菊本博子



お知らせ拡大版

お知らせ

催し

募集

まちかど通信

コラム

図書・救急など